

vRealize Automation Service Broker スタート ガ イド

2021 年 5 月 25 日

vRealize Automation 8.4

最新の技術ドキュメントは、VMware の Web サイト (<https://docs.vmware.com/jp/>)

VMware, Inc.
3401 Hillview Ave.
Palo Alto, CA 94304
www.vmware.com

ヴィエムウェア株式会社
105-0013 東京都港区浜松町 1-30-5
浜松町スクエア 13F
www.vmware.com/jp

Copyright © 2021 VMware, Inc. All rights reserved. [著作権および商標情報](#)。

目次

- 1** vRealize Automation Service Broker とは 4
 - vRealize Automation Service Broker の機能 5
- 2** vRealize Automation Service Broker を開始する前に 6
- 3** vRealize Automation Service Broker を設定する方法 8
- 4** vRealize Automation Service Broker で実行できる他の操作 13

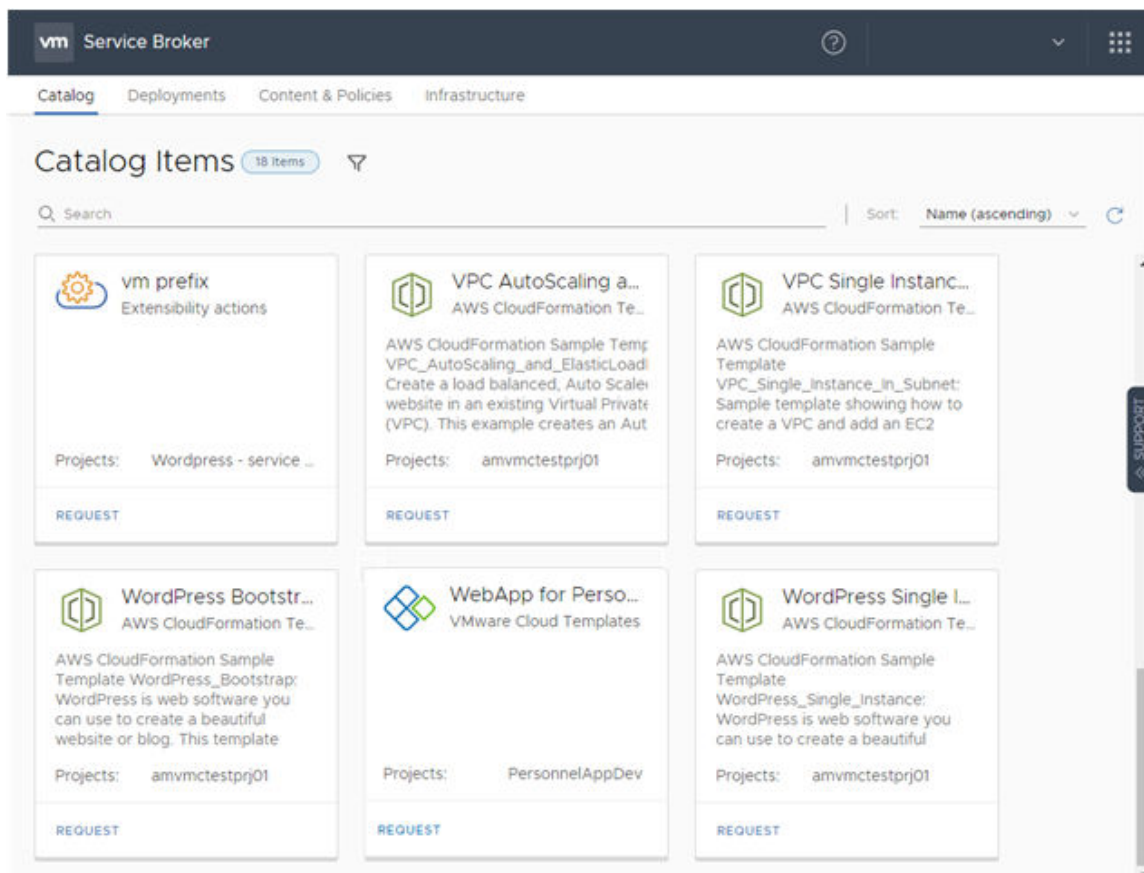
vRealize Automation Service Broker とは

1

vRealize Automation Service Broker は、カタログ アイテムを要求および管理できる単一のポイントを提供します。

クラウド管理者として、ユーザーがクラウド ベンダーのリージョンまたはデータストアに展開できる、リリースされた vRealize Automation Cloud Assembly クラウド テンプレートおよび Amazon Web Services CloudFormation のテンプレートをインポートして、カタログ アイテムを作成します。

ユーザーとして、プロビジョニング プロセスを要求および監視できます。展開後、展開されたカタログ アイテムを展開ライフサイクル全体で管理します。

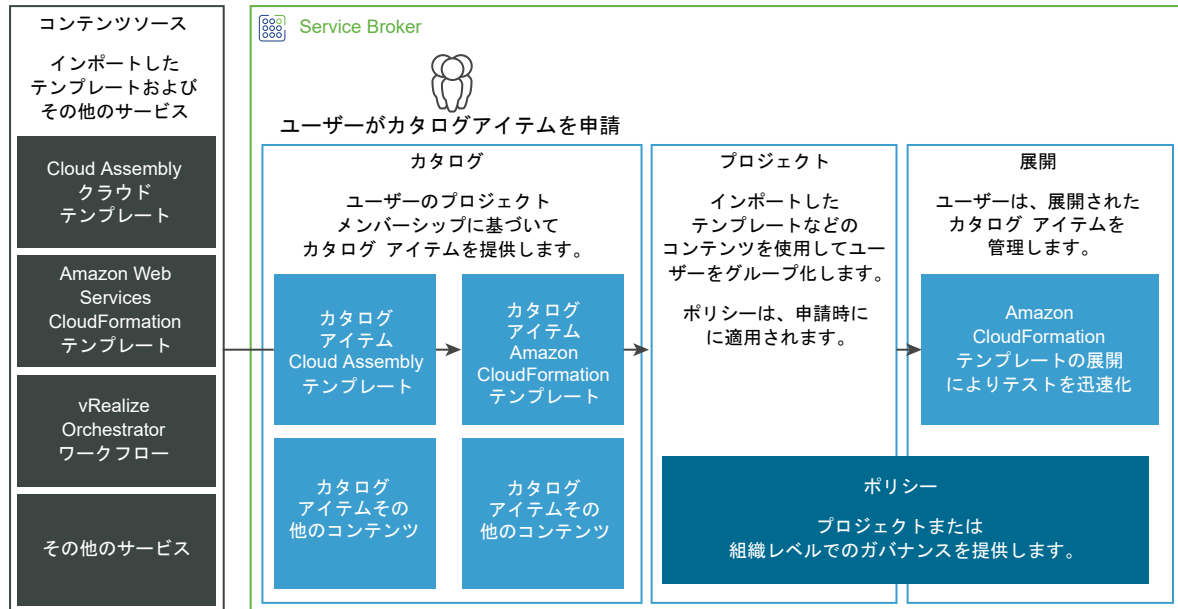


この章には、次のトピックが含まれています。

- [vRealize Automation Service Broker の機能](#)

vRealize Automation Service Broker の機能

vRealize Automation Service Broker は、ユーザーに提供する簡素化された効率的なカタログを提供します。カタログを使用して、使用可能なカタログ アイテム、およびそれらが展開される方法と場所を管理します。



一般にクラウド管理者と呼ばれる Service Broker 管理者の場合、vRealize Automation Service Broker は展開操作やその他のチームに提供する合理化されたユーザー インターフェイスです。必要なマシンとアプリケーションのテンプレートをインポートし、プロジェクト形式のガバナンスを追加して、リソースを展開できるユーザーとリソースの展開場所を制御します。

vRealize Automation Service Broker を開始する前に

2

vRealize Automation Service Broker の操作を開始する前に、パブリック クラウドおよびプライベート クラウドに接続するために特定の情報を利用できるようにする必要があります。

このチェックリストを使用すると、サービスへのオンボードを開始する前に設定できます。

表 2-1.

目的	必要なもの
vRealize Automation Service Broker に登録してログインする	VMware ID。 会社のメール アドレスを使用して、 My VMware アカウントを設定します。
VMware Cloud Services への接続	ファイアウォールを介して以下にアクセスする送信トラフィックに対して開いている HTTPS ポート 443。 <ul style="list-style-type: none">■ *.vmwareidentity.com■ gaz.csp-vidm-prod.com■ *.vmware.com
VMware Cloud Templates のコンテンツ ソースの追加	関連付けられたインスタンスから vRealize Automation Cloud Assembly クラウド テンプレートをインポートできます。 <ul style="list-style-type: none">■ プロジェクト - vRealize Automation Cloud Assembly 内のどのプロジェクトのメンバーであるかを把握します。インポートされたクラウド テンプレートを表示できるメンバーは、プロジェクトによって決定されます。

表 2-1. (続き)

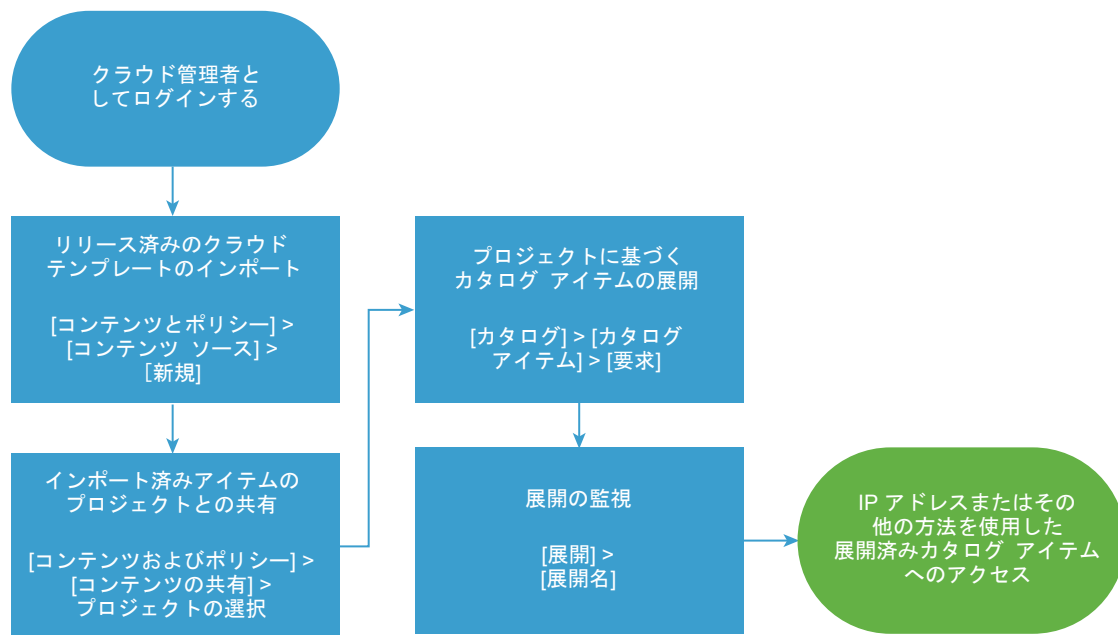
目的	必要なもの
Amazon CloudFormation テンプレート ソースの追加	<p>Amazon S3 バケットに保存されている Amazon CloudFormation テンプレートをインポートできます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ プロジェクト - vRealize Automation Cloud Assembly 内のどのプロジェクトのメンバーであるかを把握します。プロジェクトは、インポートされたテンプレートを表示できるメンバーを決定します。 ■ バケット名 - Amazon CloudFormation テンプレートが保存されている Amazon S3 バケットの名前を知っている必要があります。 ■ バケット アクセス キーとプライベート キー - テンプレートをプライベート バケットから追加する場合は、キーを知っている必要があります。 ■ 展開のターゲット アカウントとリージョン - テンプレートが展開される vRealize Automation Cloud Assembly で設定されたクラウド アカウントとリージョンを把握しておく必要があります。
テンプレート展開時のターゲット リージョンとしての Amazon Web Services クラウド アカウントの追加	<p>読み取りおよび書き込み権限を持つパワー ユーザー アカウントを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 20 桁のアクセス キーの ID と対応する プライベート アクセス キー。

vRealize Automation Service Broker を設定する方法

3

vRealize Automation Service Broker インスタンスを設定して検証するには、外部ソースから既知の作業コンテンツをインポートしてカタログでできるようにし、カタログ アイテムを展開して機能していることを確認します。

クラウド管理者として vRealize Automation Service Broker を使用するのこれが初めてのため、まずセットアップを行います。コンテンツをインポートして展開し、クラウド ベンダーに接続できるようにしてから、カタログに漏れなくポピュレートし、サービスに参加するように他のユーザーを招待します。



この使用事例では、リリース済みの vRealize Automation Cloud Assembly クラウド テンプレートをインポートします。Amazon CloudFormation テンプレートをインポートすることもできますが、ここではそのプロセスを説明しません。『vRealize Automation Service Broker の使用と管理』の [Service Broker カタログへの CloudFormation テンプレートの追加](#)を参照してください。

前提条件

- クラウド管理者としてログインします。

- クラウド テンプレートをインポートする前に、そのクラウド テンプレートが展開可能であり、vRealize Automation Cloud Assembly にリリースされていることを確認します。『vRealize Automation Cloud Assembly の使用と管理』の「[クラウド テンプレートの別バージョンを保存する方法](#)」を参照してください。

手順

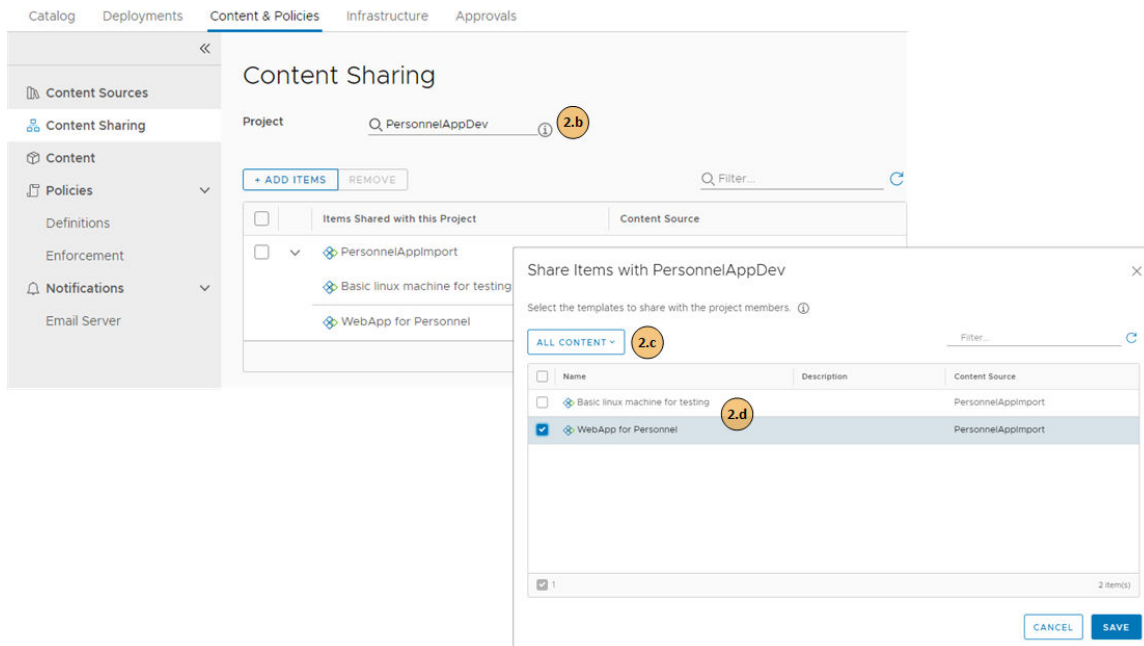
- 1 クラウド テンプレートをインポートします。

The screenshot shows the 'Content Source Details' page in the vRealize Automation interface. The left sidebar contains a navigation menu with 'Content Sources' selected. The main area has tabs for 'Catalog', 'Deployments', 'Content & Policies' (active), 'Infrastructure', and 'Approvals'. The 'Content Source Details' form includes a 'DELETE' link. The 'Type' is set to 'VMware Cloud Templates'. The 'Name' is 'PersonnelAppImport'. The 'Description' field is empty. Under 'Get cloud templates from', the 'Source project' is 'PersonnelAppDev'. A 'VALIDATE...' button is visible, and a green notification box indicates 'Content source validated successfully. 1 items found.' At the bottom, there are 'SAVE & IMPORT' and 'CANCEL' buttons.

- a [コンテンツとポリシー] - [コンテンツ ソース] の順に選択し、[新規] をクリックします。
 - b [VMware Cloud Templates] をクリックして、ソースの名前を入力します。
 - c クラウド テンプレートに関連付けられている [ソース プロジェクト] を選択し、[検証] をクリックします。
接続が検証され、インポートされるクラウド テンプレートの数が表示されます。
 - d [作成してインポート] をクリックします。
- 2 インポートしたクラウド テンプレートをプロジェクトと共有します。

クラウド テンプレートは、vRealize Automation Cloud Assembly で作成されたときにプロジェクトに関連付けられます。プロジェクトには、ユーザー グループや、クラウド テンプレートが展開されるアカウント リ

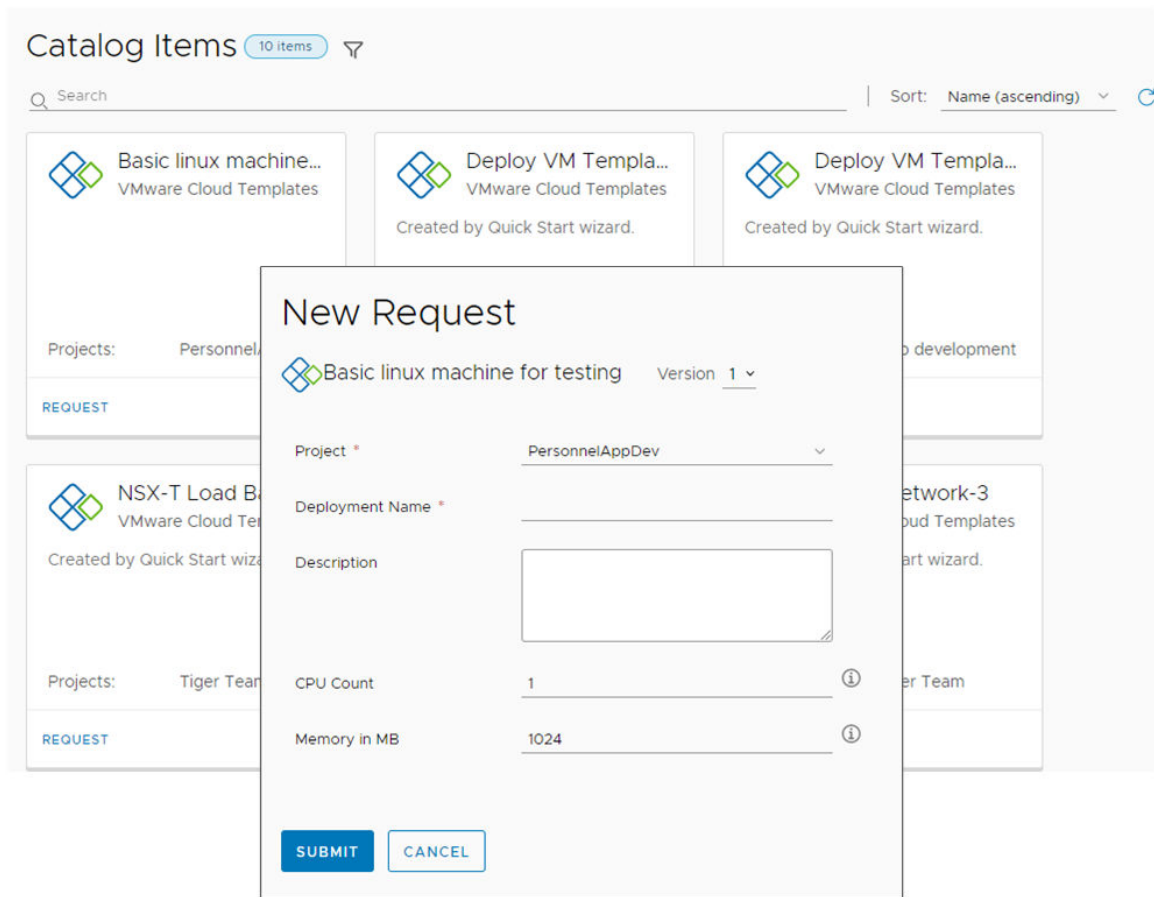
ージョンが含まれています。vRealize Automation Service Broker では、クラウド テンプレートを他のユーザーと共有できますが、展開をサポートするには、ターゲット プロジェクトにアカウント リージョンをクラウド リソースとともに含める必要があります。



- a [コンテンツとポリシー] - [コンテンツの共有] の順に選択します。
- b [プロジェクト] ドロップダウン メニューで、ターゲットのプロジェクトを選択します。
- c 特定のクラウド テンプレートのみを選択するには、[コンテンツ ソース] ドロップダウン メニューから [すべてのコンテンツ] を選択します。
- d このプロジェクトと共有するクラウド テンプレートを選択し、[保存] をクリックします。

プロジェクトのリストにクラウド テンプレートが追加され、インポートしたテンプレートがカタログで使用できるようになります。

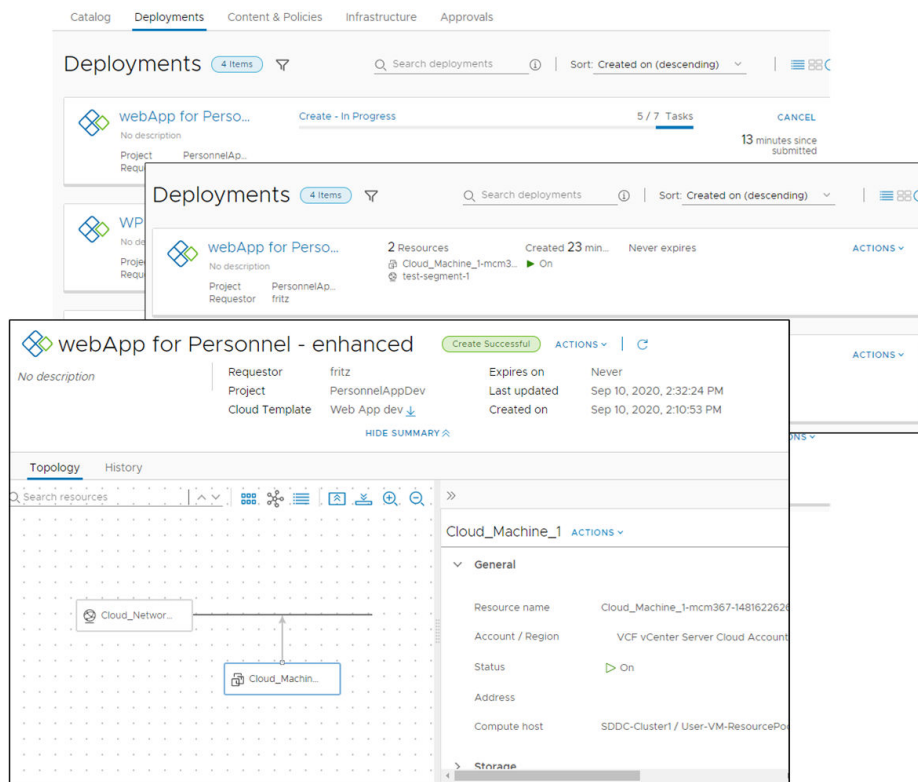
3 インポートしたクラウド テンプレートを展開します。



- [カタログ] をクリックします。
- 展開するクラウド テンプレートのカードを見つけて、カードの [申請] をクリックします。
- 申請フォームに入力し、[送信] をクリックします。

展開プロセスが開始されます。

4 展開を監視します。



a [展開] をクリックし、検索とフィルタのオプションを使用して、展開したカタログ アイテムを見つけます。

b 展開が完了したら、カードの IP アドレスを見つけます。名前をクリックすると、詳細が表示されます。

5 展開されたワークロードにアクセスし、動作していることを確認します。

展開は、アプリケーションであることもあれば、単一のマシンであることもあります。

vRealize Automation Service Broker で実行できる他の操作

4

Dev-ops チームをサポートするクラウド管理者として、vRealize Automation Service Broker を使用して、開発者が開発、テスト、および本番の環境の作成に使用するリソースのカタログを提供します。

次の推奨事項に加えて、ロールをユーザーに割り当てることもできます。[vRealize Automation の管理](#)を参照してください。

詳細	『Using and VMware Service Broker の使用と管理』を参照してください。
CloudFormation テンプレートなどのカタログ アイテムのインポート。	組織の Service Broker のセットアップ
カタログ アイテムの要求。	カタログを操作する方法
失敗した導入のトラブルシューティング。	Service Broker の展開に失敗した場合の対処